

夢に向かって将来を切り拓く子どもを育成するための環境づくり

提言①

家庭教育を支える仕組みづくりの推進

子どもや家庭のSOSの早期発見、早期対策を図るため、「子どもの豊かな育みを支える環境づくり推進本部」における関係機関との横連携を強化するとともに、当事者と支援者及び専門機関との橋渡し役となるコーディネーター等の配置と育成、必要な予算の確保策について検討されたい。

【現状と課題】

本市の子どもを取り巻く環境は、全国的な傾向でもある少子化や核家族化の進行、更に、長期に渡るコロナ禍の影響による人とのつながりや地域コミュニティの希薄化などにより、決して安泰とは言い難い。また、児童虐待の増加や、コロナ禍によって、より顕在化してきた生活困窮家庭、ヤングケアラーの問題など、子どもや家庭が抱える様々な課題が生じてきたため、令和4年4月には「子どもの豊かな育みを支える環境づくり推進本部」が設置され、庁内横断的な連携組織の構築に努めていただいているところであるが、さらに、その環境整備に努めていく必要がある。

【効果】

「子どもの豊かな育みを支える環境づくり推進本部」において、福祉分野や教育・保育機関、また、医療機関やその他専門機関等との横連携を強化するため、専門性の高いコーディネーター等を設置することにより、問題の未然予防や発現後の早期対処等、問題を抱える当事者に対し、よりの確で円滑な支援が期待できる。

提言②

子育て支援組織の連携強化と相談体制の充実

子どもの権利を侵害する実態や潜在化する問題を把握し、的確な対応の方策を検討するため、家庭や学校等、子どもが過ごす現場へ赴き、積極的に実態の把握を行うとともに、「子どもの豊かな育みを支える環境づくり推進本部」と既存の子育て支援組織とが連携し、より一層の相談体制の充実に努められたい。

【現状と課題】

舞鶴市では、学校や家庭のみならず、地域が相互に連携をしながら、0歳から15歳までの切れ目ない支援を目指し、令和4年4月には「子どもの豊かな育みを支える環境づくり推進本部」が設置され、課題解決に向けた取組が期待される場所である。また、国においても、子どもを誰一人取り残さず、健やかな成長を社会全体で後押しし、子どもと家庭を総合的に支えていく新たな組織として、「子ども家庭庁」を令和5年4月に創設される予定となっている。

しかしながら、現状では、地域とのつながりの希薄化により、相談機関につながることで困難な家庭があるなど、子どもの健やかな成長を阻害する要因も見受けられる。そのため、まずは、実態調査を行い、親も子も孤立しないような仕組みづくりや関係機関等とのネットワークの構築が課題となっている。

【効果】

「子どもの豊かな育みを支える環境づくり推進本部」の設置をきっかけに、従来からの相談支援体制を、より一層充実させることにより、子どもの権利・利益を擁護し、未来を担う子どもたちが生まれ育った環境によって左右されることのないよう、子どもの豊かな育ちの連続性確保に向けた環境づくりの構築が期待される。